



フードバンク関西ニュース

2017年10月15日 第37号

フードバンク関西は企業から寄贈された食品を
支援を必要とする人達を支える非営利団体に
無償で分配する活動をしています。

2017年10月15日発行

認定特定非営利活動法人

フードバンク関西

事務所 芦屋市呉川町1-15

TEL/FAX 0797-34-8330

e-mail foodbank05@yahoo.co.jp

URL <https://foodbankkansai.org/>

フードバンク関西は新年度を迎えました。

新年度を迎えるにあたってのご挨拶

代表 浅葉めぐみ

フードバンク関西は平成29年9月1日から新年度（平成29年度）に入りました。今年の9月で、フードバンク関西が活動を始めて15年目になります。皆様の温かな励ましと共感を得て、賛助会員、市民の皆様、企業や団体の皆様からの会費や寄付、食品のご寄贈に支えられて、この事業を今日まで展開できている事を、ボランティア一同、心より感謝申し上げます。

2003年に、コストコ尼崎店から寄贈されたパン野菜果物を西成地域のホームレス支援団体に届ける事からスタートしましたが、今では福祉施設百数団体にお配りするだけでなく、行政との協働で一時的に困窮した市民の皆さんに緊急支援としてお渡しする「食のセーフティネット」や、月に1回宅配で届く食品が詰まった段ボール箱を子ども達が楽しみに待っていてくれる母子家庭支援の「子ども元気ネットワーク」、子ども達が安心して集える居場所を作り、地域の子育てを担う「子ども食堂」を支える「フードバンクと子ども食堂の連携プロジェクト」等、食品を通じて本当にたくさんの方々と繋がって活動が出来ている事を、とても嬉しく、力強く、感じています。今年度は事務所兼倉庫の移転を果たして、さらに活動を充実させ、事業改革と発展のための飛躍の年とすることが出来ますよう、約70人のボランティアみなで意欲的に活動に取り組みたいと考えます。



2017年8月26日年度末ミーティング時の集合写真

平成28年度事業報告

当法人は、10月14日、平成28年度通常総会を開催し、昨年度の事業報告、決算、来年度の事業計画、予算を正会員の皆様に承認いただきましたことを、皆様にご報告申し上げます。無事、年度末を迎えることが出来たのも、ご支援くださる皆様の当法人への温かなお励ましの結果と、大変ありがたく、心より御礼申し上げます。このニュースで、事業報告と決算の概要をご報告申し上げます。皆様に大変ご心配いただいております、事務所兼倉庫の移転につきまして、ホームページでのご支援と情報提供のお願いに、皆様からのたくさんの情報やお励ましをいただきました。昨年度中には、適切な物件に出会うことが叶わず、移転は実行できませんでした。新年度9月に入り、状況が少し好転して、移転先の目途がつきそうです。次号のニュースには、新事務所と倉庫のご紹介が出来るよう、努力いたします。

平成28年度事業報告概要 (平成28年9月1日から平成29年8月31日まで)

1 事業活動の状況

フードバンク関西は平成28年度、食品関連企業や個人から、食べ物としての品質に問題のない食品の寄贈を受け、それらの食品を以下の4事業で活用しました。

1-1 フードバンク事業 食品の取扱量と福祉団体等への無償分配事業

平成28年度、フードバンク関西は新たに食品関連企業8社と確認書、合意書を交わし、62社の食品関連企業から食品の寄贈を受け、12企業、2行政から災害備蓄食品交換時の旧品の寄贈を受けました。食品の年間取扱量は205.4トンで、昨年度と比較して20トン増加しました。また家庭で使いきれない食品を持ち寄るフードドライブは33団体で行われました。当法人が寄贈を受けた食品を活用する、支援を必要とする人達を支える団体、福祉施設数は、年度末現在106団体、福祉施設に分配した食品の年間合計量は約192トンでした。

平成28年度取り扱い食品の提供元・重量・全体への割合

寄付食品の提供者	団体数	重量 t	全体への%
食品関連企業、法人	62社	159.1	77.5
企業 災害備蓄食品旧品の寄付	34社	13.1	6.4
フードドライブ	33団体	2.4	1.2
他のフードバンク団体	2団体	14.2	6.9
個人	704件	16.4	8.0
平成28年度取り扱い食品量 総合計		205.4	100.0

1-2 食のセーフティネット事業

平成24年から着手した、行政との協働による食のセーフティネット事業は、尼崎市、宝塚市、池田市と、芦屋、西宮、伊丹、川西の各社会福祉協議会、兵庫県下郡部12町の自立支援事業を県から受託しているワーカーズコープ姫路に加えて、本年度、新たに宝塚市社会福祉協議会と神戸市東灘区社会福祉協議会が加わりました。本年度中の支援件数は527件(受益者人数835人)となり、昨年度の385件を大きく上回りました。この事業に活用される年間合計食品量は約3トンでした。

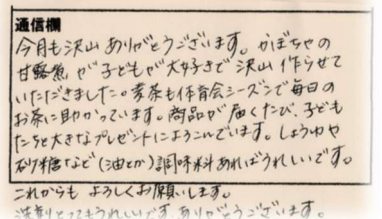
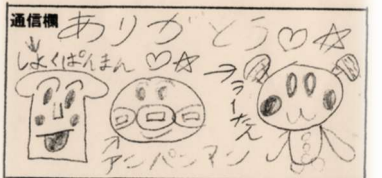
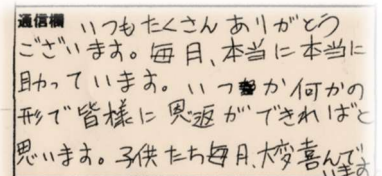
1-3 子ども元気ネットワーク事業

平成27年から認定NPO法人ウィメンズネットこうべ、NPO法人フリーヘルプ、認定NPO法人いくの学園と当法人が連携して、「子ども元気ネットワーク関西」を立ちあげ、困窮母子世帯に対し、連携して支援をする事業に取り組んでいます。当法人は現在母子家庭40世帯に、毎月1回、食品を宅配便で届けています。受け取り母子世帯からは、子ども達が毎月心待ちにしている事、子ども達が喜ぶ姿を見て母親は心安らぐ時となっている等、感謝を伝えるメッセージが送られてきます。この事業で活用する食品量は、年間約10トンになります。

1-4 子ども食堂支援事業

子どもの生活環境が変化し、共働き、片親世帯の増加に伴う子どもの孤食、欠食を懸念し、各地域でボランティア団体により開催されている子ども食堂が増加しています。

当法人は子ども食堂への食材支援に加えて、本年度新たに、兵庫県南部で活動している子ども食堂に聞き取り調査を行い、各団体が情報の共有と連携を求めている事を知り、ネットワークの構築を図りました。2月に、当法人が事務局を引き受け「兵庫こども食堂ネットワーク」を立ち上げました。このネットワークでは、2、3か月に一度、会議を持って共通する問題を討議し、グループメールにより日常の連絡や活動報告、情報交換をしています。平成29年2月21日に24の子ども食堂が集まり初回会議を持ち、5月25日には第2回会議を開催し、子ども食堂が活用できる保険について活発な情報交換が行われました。本年度末現在、子ども食堂40団体が参加しています。



2 広報活動

今まで活動趣意書として作成していたパンフレットを、スタイルも一変して年次報告書に改め、5月に発行しました。諸行事やイベントで、皆様にお配りする活動紹介チラシを6月に新たに作りなおし、見やすく分かりやすいものにしました。ホームページの更新、フェイスブックでの情報発信により広く当法人の活動状況をアピールしています。

3 フードバンク関西への評価について

3-1 賛助会費、寄付、食品の寄付

賛助会員の皆様からの年会費、一般の皆様からの寄付が、個人、法人を合わせて延499件で、フードバンク関西の年間運営費を支える大きな柱となっています。

事務所に宅配便で届けられる食品の寄贈は本年度704件でした。特にお米の寄贈は企業からの提供量を上回り、主な供給源となっています。広汎な市民の皆様のご支援に支えられ、この活動を継続出来る事を、ボランティア一同、心から感謝しています。

この1年間フードバンク関西を支えてくださった皆様に感謝いたします。

	合計	個人		法人	
食品の寄贈	205.4t	16.4t		189t	
正会員会費	330,000 円	31 名	330,000 円		
賛助会員会費	2,784,000 円	132 件	834,000 円	123 件	1,950,000 円
寄付・募金	6,816,961 円	214 件	2,841,408 円	30 件	3,975,553 円
ラッフル寄付	659,000 円	154 件	659,000 円		
助成金	5,468,026 円			4 件	5,468,026 円

3-2 受領した助成金

本年度は兵庫県共同募金会からの「食のセーフティネット事業」への助成30万円、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社社会貢献委員会からの「フードバンク事業と子ども食堂の連携プロジェクトの構築」への助成342万円、在日米商工会議所から「子ども元気ネットワーク関西」における母子世帯への継続的食支援への助成金100万円、パブリックリソースセンターのギブワン寄付（インターネット寄付サイト）からの支援金74万8026円を受領することができました。これらの助成により、運営資金調達に不安を抱かずに、各プロジェクトに積極的に取り組むことが出来ています。

4 今後の展望

本年度は手狭になった事務所兼倉庫の移転を実行すべく努力をしましたが、年度末までに条件が合う物件と巡り合えず、次年度に持ち越しました。次年度中に移転を実行し、将来への展望を踏まえた事業内容の合理化と事業の拡大発展を図ります。

日本では、毎年600万トンを超える膨大な量の食品ロスが発生しています。これら、まだ食べられるのに廃棄される食品を企業や個人から寄贈を受け、食べ物として、支援を必要とする人達に届け、無償で分配するフードバンクは、今後さらに事業を拡大発展する必要があります。現在実施しているフードバンク事業での食品取扱量の増加と内容の充実を図り、食のセーフティネットの拡充、子ども元気ネットワークでの母子世帯支援数の増加、子ども食堂への支援の充実をはかり、子ども達から高齢者まで、私達の誰もが安心して暮らせる地域社会作りに、貢献していきたいと考えます。今後も、フードバンク関西へのご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成28年度収支決算報告

収入（円）		支出（円）	
正会員・賛助会員年会費	3,114,000	事業費	6,774,511
寄付・募金（ラッフル寄付含む）	7,475,961	管理費	1,026,760
助成金	5,468,026	固定資産	0
その他の収入（利息・謝金等）	353,335	支出合計	7,801,271
収入合計	16,411,322	経常収支差額	8,610,051

兵庫子ども食堂ネットワーク会議報告



フードバンク関西では、昨年4月から、子ども食堂チームをつくり、開設された子ども食堂への聞き取り調査などの情報収集を行い、支援を必要とする子ども食堂への食材提供などを行ってきました。さらに、子ども食堂同志の連携、新規立ち上げ支援などを目的に、今年2月に「兵庫子ども食堂ネットワーク」を立ち上げ、事務局として取りまとめを行っています。現在、ネットワークへの登録は、兵庫県南部地域の子どもの食堂（開設準備中も含め）40団体です。

「兵庫子ども食堂ネットワーク」では、2、3か月に1回、ネットワーク会議を開催しています。初回2月21日の会議に続いて、第2回は、5月25日に芦屋市保健福祉センター多目的ホールで開催され、約50名の参加がありました。この会議では、子ども食堂保険についての情報提供や各団体の状況報告、立ち上げ準備中のところに対して助成金申請その他について活発にアドバイスがなされ、とても有益でした。第3回は、9月15日、参加人数約45名、第2回と同じ会場で開催され、「居場所としての子ども食堂」をテーマに、各団体の取り組んでいること、課題を出し合い、具体的な事例で活発な意見交換を行いました。子ども食堂に対する支援を得るために、あらゆる機会に支援を必要としている事を積極的に発信していく事が大切という事でも一致しました。今や子ども食堂は、どのようにそれぞれの地域に根付かせていくかが問われる段階にきていると感じます。フードバンク関西も兵庫子ども食堂ネットワークを通じて、一緒に取り組んでいきたいと思えます。

次回のネットワーク会議は11月15日午後2時から芦屋市保健福祉センター3階多目的ホールで開催します。フェイスブックページ作成しました！ <https://www.facebook.com/ksnetworkhyogo/>

第9回ラッフルキルトのご案内

今年もラッフルキルトの季節になりました

ラッフルは「くじ付き寄付」の事で、寄付をして下さった方に、抽選チケットをお渡しし、当選した方に賞品を贈ります。今回もキルトリーダーズ兵庫の先生達の合作、当法人のキルト同好会の仲間が心を込めた作品、ヒルトン大阪のお食事券、その他、ご協賛企業からの素敵なプレゼントが集まりました。ふるってご参加ください。

1口・1,000円（何口でもOK）

▼受付締切：平成29年11月30日(木)

■抽選日：平成29年12月7日(木)

■公開抽選場所：ホテルモントレ神戸 当選番号は当法人HPにて掲載お振込み先

ゆうちょ銀行 口座記号・番号 00940-4-221867

加入者名 特定非営利活動法人フードバンク関西

皆様からの寄付金は、当法人運営費として大切に活用させていただきます。

「フードロス勉強会」をやっています。

フードバンク関西の大学生ボランティアが中心になって、神戸三宮駅前サンパル2階にある神戸ソーシャルキャンパスで「食品ロスについて学ぶ勉強会」が開催されています。開催は不定期ですが、夜7時から9時くらいまでの集まりです。ご関心をお持ちの方は、神戸ソーシャルキャンパスまでお問合せ下さい。078-241-9797 info@kobesocialcampus.net

幸せの黄色いレシートキャンペーンをご存知ですか？

イオン系の量販店で毎月11日、黄色いレシートを、支援したいNPOや福祉団体のボックスに入れると、ボックスに集まったレシートの合計額の1%相当のギフト券がその団体に贈られます。フードバンク関西は、ダイエー東芦屋店、コーヨー南宮町店にボックスを置かせていただいています。11日にお買い物に行かれた時はよろしくお願ひします。



フードバンク関西はジョンソン・エンド・ジョンソン 社会貢献委員会の助成を受けて活動しています

編集後記 秋が深まり、金木犀の香りが漂っています。芦屋川沿いを歩いていて河原にウリ坊を発見、近くにお母さん猪がいることを考えて、その場を足早に去りました。新年度から役割分担が少し変わり、新しい会計ソフトの導入、事務所移転の準備として古い書類のかたづけ、次から次へと仕事が湧いてきます。忙中閑ありと言ってみたくけれど、忙中物忘ればかり。 浅葉 記